

夕刊 碧城新聞 日六十二月四年七和昭

途上漫筆 (一)

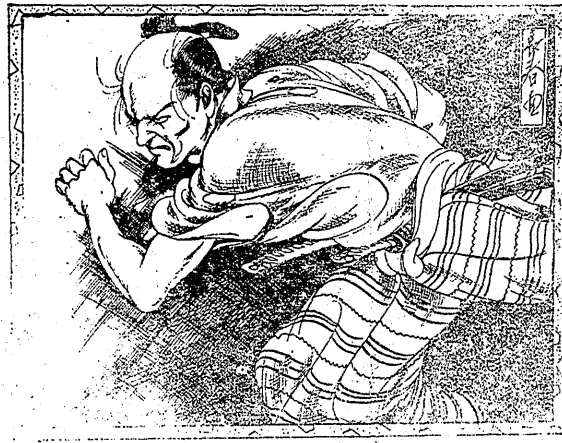
回之字會 小野生

思想講演の大家久留島武力を注いだ事は、村民多数... 先生の主催する、回之字の記憶に存する所であらう...

獨居

山野邊 青甫

〇ひらひらの雨の裏に海苔を立つるの淋しさを心にし... 〇床の間に想にふける夜のしづかさを心に響かす...



中の丸に渡らせらるるぞ願ひ上げ奉る... 若殿は、堪らなくなつて...

拈華微笑 早くやつて貰 平町の公會堂で 五十三次の見學... 花が散つて解語 観覧料が二貫に...

△二五〇六〇〇〇 運動 競技(六大学野球リーグ) △六三〇〇〇 講演(結核絶...)

良品廉賣に勝る 商略なし 磐城セメント特約代理店 釜屋商店

吉田眼科病院 平町紺屋町 確實敏捷は久の生命なり

お醤油は ヤマフル 山崎合名會社 味噌醤油 味噌醤油 味噌醤油

DOOGEE 新車御披露 斯界のナンパーワンは 三九二タクシータツチ

踏デモ叩イテモ 絶対コハレヌ時計硝子 秋山時計店

高久病院 平町新川端 難波醫院

お醤油は ヤマフル 山崎合名會社

